

松村文庫について

月本 雅幸

本研究室に特殊文庫として「松村文庫」が所蔵されている。これは本研究室の元名誉教授、松村明先生の旧蔵になるもので、先生の御逝去の後、御遺族から研究室に寄贈されたものである。本稿では本文庫の概略について述べると共に、これが研究室の所蔵に期した経緯を述べることとしたい。

松村明先生は大正五年（一九一六）九月東京神田のお生まれ、昭和十五年（一九四〇）東京帝国大学文学部国文学科を卒業され、国際学友会、文部省、第七高等学校、鹿児島大学、東京女子大学、お茶の水女子大学を経て、昭和三十四年（一九五九）四月に東京大学文学部助教として本研究室に着任された。昭和三十七年四月には教授に昇任され、昭和五十二年（一九七七）四月に停年退官されるまで、本研究室の発展に尽力された。同年五月には東京大学名誉教授の称号をお受けになっている。

松村先生の御専門は近世後期から近代の日本語の研究で、主著には『江戸語東京語の研究』『洋学資料と近代日本語の研究』などがあり、また先生は『大辞林』『大辞泉』という大型の国語辞書の編者としてもよく知られている。

松村先生は平成十三年（二〇〇一）十一月二十二日に御病気のため逝去されたが、その直後、御遺族より先生の御蔵書を全て東京大学文学部国語研究室に御寄付下さるとのお申し出があった。当時在職した教員が相諮り、関係方面とも協議した結果、先生の御蔵書の約三分の一を頂戴することとなり、平成十五年三月には、段ボール箱約三百九十箱の御蔵書や資料が松村家から研究室に搬入された。これが東京大学文学部国語研究室所蔵松村文庫である。

松村先生は蔵書家としても著名であられたが、中でも幕末から明治期にかけての洋学資料の類、また江戸時代後期の文学資料、とりわけ人情本については他の追隨を許さない大コレクションをお持ちであった。

松村先生の御蔵書の特徴は、江戸語・東京語の研究資料を網羅した観のあることであり、また、同じ書名のもので、複数の版をお持ちであったことである。幕末のオランダ語辞書『訳鍵』が四部あり、ヘボンの『和英語林集成』の初版、再版、三版が全て揃った上で、さらに多くの版をお持ちであったことだけでも、このことは明白であろう。

我々はこの膨大な御蔵書のうち、和書については明治末年までの書写・刊行になるもの、また洋書についてもそれに準ずるもの、即ち東京大学附属図書館の基準により「準貴重書」とされるものを優先して登録、配架、公開することとし、その整理に傾注することとした。当初この作業は三〇五年で完了することを企図したが、実際にその大部分が終了したのは平成二十七年春のことであった。これを「松村文庫準貴重書」と称し、その点数は約二八〇〇点、冊数は約八五〇〇冊に上る。この間、本来の業務に加えてこれらの準貴重書の登録作業に当たられた東京大学文学部図書室受入・目録の歴代担当者に感謝したい。

この「松村文庫準貴重書」は順次東京大学附属図書館オンライン目録(OPAC)上で公開され、既に学内外の多数の研究者から注目され、また、利用されている。我々は当初からこれら松村先生の旧蔵書が広く日本語、日本文化の研究の資料として活用されることを期待していたが、少しずつOPAC上で書名や書誌情報が公開されるや否や、多く

の研究者から閲覧の依頼や、問い合わせが研究室宛に届くようになった。その件数は年間五〇回を大きく超え、研究者の専門も国語学のみならず、医学史、軍事史、法制史などにも及んでいる。

このように、松村先生の御蔵書は、本研究室の古書を質量の両面から飛躍的に高めたものであり、これを本研究室に御寄贈下さった松村先生と松村家の方々には感謝の言葉も見つからないほどである。せめてもの研究室としての謝意を表したいという考えから、平成二十七年九月十七日とささやかではあるが「松村文庫感謝の会」を開催することとした。松村先生の奥様、またお嬢様方とその御家族の皆様をお招きし、また、松村文庫準貴重書の整理に携わった元学生・助手・助教・事務補佐員の方々、松村先生に御縁のある学界や出版社関係の方々、文学部図書館関係者、歴代本研究室の教員各位に御出席をお願いした。

この会のために、特に文学部図書館関係者の御好意により「東京大学文学部国語研究室所蔵松村文庫目録」が作成され、少数数印刷に付され、当日の出席者に配布された。ここには既に整理されて法文二号館の準貴重書室に収納配架された「松村文庫準貴重書」の一点毎のデータが記されている。この目録に関して、格別の御配慮を頂いた永嶺重敏氏、萩谷静香氏をはじめとする東京大学文学部図書館の各位に感謝したい。

なお、最後に二点付言したい。一つはこの目録に挙げられていない「松村文庫一般書」等の資料についてであり、もう一つは東京大学以外に寄贈された松村文庫の書物についてである。

本研究室に御寄贈頂いた松村先生旧蔵の資料のうち、未だ整理されていないものには次のようなものがある。

- ・ 江戸時代語や江戸時代の文芸に関する研究書
- ・ 洋学や洋学資料に関する研究書
- ・ 江戸時代語資料の写真
- ・ 洋学資料の写真
- ・ 政府審議会（国語審議会・民事行政審議会）関係資料
- ・ 国語辞典（大辞林、大辞泉）編纂関係資料

これらの詳細については述べる余裕がないが、研究室が所蔵していない研究書をはじめとして、国語学研究に重要な資料を多く含んでいることを指摘しておきたい。本研究室としては、これらについても平成二十八年度から順次整理を開始し、貴重な研究資料として登録を行う予定である。

本研究室に頂かなかった資料については、その大部分が北京の日本学研究中心に寄贈された。これについては、当時本研究室に在職されていた鈴木泰名誉教授の御尽力と国際交流基金の御配慮によるところが大きい。また、一部分

は台湾の大葉大学、韓国の高麗大学に寄贈された。これらの輸送は平成十七～十八年（二〇〇五～二〇〇六）にかけて行われたが、これにより、松村先生の御蔵書は日本、中国、台湾、韓国と文字通り東アジアの各国・地域で保存され、活用されることになった訳である。

この機会に改めて松村先生に感謝し、御寄贈頂いた資料の整理、保存と活用について、本研究室が今後とも努力を続け、斯学の発展のために広く研究者の方々に公開することを銘記したいと思う。

（つきもと まさゆき 大学院人文社会系研究科 教授）